

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

選択式, 記述式, 論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

問題ページ数は昨年に比べて増加したが, 小問数と論述量が減少した。

詳細な知識を要求する問題が減少した。

出題の特徴や昨年との変更点

論述問題が出題の中心となっている。

試験時間に対する問題量が多い。

その他トピックス

大問数が昨年までの3問から1問減少して2問となった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	選択式 記述式 論述式	神経 ホルモン	生物基礎 生物	問題1 b) 1) 興奮が両方向に伝導する理由を述べても許容されるだろう。 問題1 c) 3) 筋繊維の細胞内での情報伝達について答える必要があるだろう。 問題4 問3 視床下部で分泌されたホルモンは短い血管を介して脳下垂体前葉に作用するため, その分泌量は他のホルモンに比べて非常に少ない。	やや易
2	選択式 記述式 論述式	進化 系統 遺伝子	生物	問題3 問1 潜在変異によるミトコンドリア病が10万人あたり0.4人において発生するので, その頻度は 4×10^{-6} であり, これより, 変異遺伝子の頻度は 2×10^{-3} となる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 教科書レベルの基本的な知識を, 正確に論述できるようにしておく。
- 試験時間に対する問題量が多いので, 問題演習を重ねて問題文の読解や解答作成の速度を上げておく。